

## 「子どもたちの安全を守る」

日頃より本校の教育活動に温かなご支援をいただきましてありがとうございます。着任して2年目を迎えました。今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

さて、先日、本校にて「荇田西安全なまち会議」が開催されました。この会議は、年に一度、えだにし学援隊と各自治会、協力の会、学校のそれぞれの代表が集まり、荇田西地区の交通安全と防犯について情報交換を行うもので、地域・保護者・学校が一丸となって児童の安全を見守っていくことを確認し合える機会となっております。会議では、今年度も、児童の登下校の様子や交通事故防止に向けた取組について意見交換がされました。その中で特に共通理解を図れたことは、児童の歩行の仕方や自転車の乗り方についてです。例えば、自転車に乗った児童が左右の確認なく交差点を渡る様子や、児童がふいに飛び出して道路の反対側に渡ってしまう様子、友達との会話に夢中になり道路に広がって歩く様子がよく見られるとのことでした。学校長からは「学校では折を見て交通安全の指導を続けていますが、やはり子どもはその場で何が良くないのか声をかけることで理解が深まるので、見かけたらぜひ声をかけてほしい。」と話がありました。参加者の皆様からは、「注意することをためらってしまうことがありましたが、躊躇せず伝えていきたい。」と言っていました。子どもたちの命を守ることは最優先課題です。保護者や地域の皆様が同じ思いで児童の安全を見守ることができれば、こんなに心強いことはありません。ここで話し合われたことをたくさんの方と共有して、全ての児童の安全を守りたいと強く思いました。

また、協力の会の代表として出席された方が「子どもが毎朝、学援隊の方から声をかけていただいています。本当に有難いです。」と、話されていました。様々な立場の方の思いがつながり、より強い結びつきが生み出されるような会となりました。

そして、その日の午後には、えだにし学援隊の守屋隊長と学校長との3人で、のぼり旗を設置していただいている協力者の方々のところへ、協力のお礼をお伝えするとともに、引き続きの設置をお願いする挨拶回りに行きました。のぼり旗はえだにし学援隊の発足以来少しずつ増え、現在は22旒（りゅう）設置してあります。その日、協力者の方から、「もう1旒設置するよ。」と嬉しいご提案がありました。子どもたちを地域で守りたいという思いの積み重ねが、地域の方々の心に届き、今の姿になっていることを改めて実感しました。黄色に輝くのぼり旗が、これからますます子どもたちの安全を24時間見守ってくれるシンボルのような存在になってほしいと感じました。

7月初旬には、スクールゾーン対策協議会が開催され、改善要望箇所を直接お伝えする予定です。昨年度末にご協力いただいたアンケートをもとに、スクールゾーン委員の方々に要望をまとめていただきました。校外だよりでも、定期的に交通安全の呼びかけを行っております。ぜひ保護者の皆様には、地域の方が安全を見守ってくれていること、そして、自分の命を守る行動についてお子さんと話していただきたいと思ひます。

えだにし学援隊の皆様、地域の皆様、保護者の皆様、本当にありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。